



地域からこころの医療を考える会

2015

開催要項

2015. 9. 19 Sat ~ 9. 20 Sun

自治医科大学
地域医療情報研修センター

【開催趣意】

メインテーマ

気がつけば、みんなつながっている

～プライマリケアで役に立つメンタルヘルスの基礎知識～

プライマリケアに従事しているスタッフは誰でも、様々な身体疾患の治療を行う過程で患者さんのメンタルヘルスの問題に必ず直面すると言っても過言ではありません。

それは、高齢者の認知症の問題であったり、合併するアルコール依存やうつ病などの治療であったり、自殺企図への対応であったり…と実に様々です。精神疾患の診断が付かないまでも、病気の告知と受容、治療の説明などの場面で、患者さんがメンタルヘルス上の不調をきたさないよう、いつも心理面に配慮をしているはずで

一方、精神医療に従事するスタッフも、精神障がいをもつ人が何らかの身体疾患を合併した時、その対応に苦慮した経験が何度かあることでしょう。少子高齢化が進む中、精神科専門の医療機関であっても、ある程度の身体合併症への対応をせざるを得ない状況になっていることを、現場の多くのスタッフが感じています。

Martin Princeらが発表した“ No health without mental health” (Lancet, 2007) には、現代社会が抱えるメンタルヘルスの課題が記されていますが、このスローガンは、WHOのMental Health Action Plan 2013 - 2020の原則にもなっています。地域医療の現場で働く私たちにとっては、あまりに当然であるこの考え方が、あらためて脚光を浴びるようになったことは、驚きでもあり、喜びでもあります。

地域からこころの医療を考える会では、今年はプライマリケアで役立つメンタルヘルスの知識と技術に焦点をあてつつ、身体科と精神科の連携、病院と地域の保健福祉機関との連携等について考えたいと思います。

ご参加の皆さまにとって、この会が所属や専門を超えてつながり合う機会になれば、望外の喜びです。



【開催日程】

2015年9月19日（土）午後～9月20日（日）午前



【プログラム】

第1日目 9月19日（土）

時間	プログラム	内 容
13:00	開 会	代表あいさつ 竹島 正（川崎市健康福祉局障害保健福祉部） 祝 辞 須田 史朗 教授（自治医科大学精神医学教室）
13:10	基調講演	地域からこころの医療を考える 竹島 正（川崎市健康福祉局障害保健福祉部）
13:30	リレーレクチャー	プライマリケアで役に立つメンタルヘルスの基礎知識 北村 立（石川県立高松病院） 「高齢者への精神科薬物療法を見直す ～特に認知症治療薬、抗不安薬について」 岡村 毅（東京大学大学院医学系研究科精神医学分野） 「社会的弱者を守るプライマリケア ：精神障がいを持つホームレスの調査から」 渡邊 博幸（千葉大学大学院社会精神保健教育研究センター） 「プライマリケアとメンタルヘルスケアとの協働を どのようにつくるか？」 栃本 真一（石川県立高松病院） 「プライマリケアで役に立つアルコール依存の基礎知識」
16:45 17:00	特別講演	尾身 茂（独立行政法人地域医療機能推進機構 理事長） 「WHOそしてJCHO ～公衆衛生に携わる皆さんへの期待～」
18:00	懇親会	自治医大周辺 地域におけるこころの医療の実践について、大いに意見交換して下さい

第2日目 9月20日（日）

時間	プログラム	内 容
10:00	ケース カンファレンス	<事例呈示> 北田 志郎（自治医科大学看護学部・あおぞら診療所, 千葉県松戸市） 1) 誰も気づかなかった～Aさんが誤嚥性肺炎で瀕死となるまで 2) 精神科医の往診お断り～在宅医療導入で完成する身体表現性障碍の病理
11:00	グループ ディスカッション	明日のこころの医療を地域から考える ～プライマリケアと精神医療の連携体制をどのように構築すべきか
12:15	閉 会	皆さま、お疲れさまでした。

